



船場倶楽部

SEMBA CLUB

www.sembaclub.com

川奈線 SANKYUBASHI-Suji
 井原線 DOBUKE-Suji
 心原線 SHINSAIBASHI-Suji
 豊神線 MIDO-Suji
 堀橋線 GORYO-Suji
 東S線 UONOTAMA-Suji
 芝原線 YOKOBORI-Suji
 土佐堀通 TOSABORI-Dori
 内北浜通 UCHIKITAHAMA-Dori
 今橋通 IMABASHI-Dori
 浮世小路 UKIYOSYOJI-Dori
 高麗橋通 KORAIBASHI-Dori
 伏見町通 FUSHIMIMACHI-Dori
 道修町通 DOSHOMACHI-Dori
 平野町通 HIRANOMACHI-Dori
 淡路町通 AWAJIMACHI-Dori
 瓦町通 KAWARAMACHI-Dori
 備後町通 BINGOMACHI-Dori
 安土町通 AZUCHIMACHI-Dori
 本町通 HONMACHI-Dori

船

ワクワクする
船場のこれから

SEMBA 場
2030

提案コンペ レポート

R E P O R T

東横線 HIGASHYOKOBORI-Suji
 新川線 HONKAWABASHI-Suji
 坂田線 ITAYABASHI-Suji
 C川線 YAQYAMACHI-Suji
 新東横線 NANIMABASHI-Suji
 中環線 NAKABASHI-Suji
 南本町通 MINAMIHONMACHI-Dori
 中央大通 CHUO-O-Dori
 久太郎町通 KYUTAROMACHI-Dori
 北久宝寺町通 KITAKYUHOJIMACHI-Dori
 南久宝寺町通 MINAMIKYUHOJIMACHI-Dori
 博労町通 BAKUROMACHI-Dori
 順慶町通 JYUNKEIMACHI-Dori
 安土寺橋通 ANDOJIBASHI-Dori
 塩町通 SHIOMACHI-Dori
 長堀通 NAGAHORI-Dori

SEMBA 船場 2030

ワクワクする 船場のこれから 提案コンペ レポート

はじめに	1
実施概要	2
実施の流れ	3
総評	7
作品紹介—まちづくり提案部門入賞作品	9
同一アイデア提案部門入賞作品	16
同一応募作品一覧	17
座談会〜ワクワクする船場のこれから〜	19
先行チャレンジ企画の開催	21
船場とは	23
提案コンペ 応募状況	25

はじめに

2001年「船場げんき提案」というアイデア募集がありました。この頃の船場は、まさに「船場をげんきに!」というキャッチフレーズが必要なまちでした。これにはたくさんのアイデアが寄せられ、それをきっかけに、船場らしい空間活用や賑わいなど様々な活動が生まれました。

そしていま、船場は建設ラッシュともいえる状況で、マンション、ホテルが建設され、ベビーカーを押すファミリーや、スーツケースを引くビジターの姿が数多く見受けられるまちへと変わってきました。もう、「船場をげんきに!」というキャッチフレーズは、似合わないでしょう。しかし、私たちは未来に向かって、新しいユニークな活動がもっともっと、フツフツと生まれ続ける船場のまちであって欲しいと願っています。

そこで、概ね10年先の2030年を想定した「ワクワクする船場」のアイデアを募集することにしました。

気軽に提案頂く「アイデア提案」と、総合的な見地から具体的に提案頂く「まちづくり提案」の2分野を募集したところ、合わせて80件以上の応募をいただきました。

そして一次審査、二次審査・表彰式を経て、アイデア提案部門入賞5作品、まちづくり提案部門入賞9作品が選ばれました。

応募いただいた多数の皆様、そして開催に際しご協力・ご支援いただいた皆様に感謝するとともに、今後、このコンペをきっかけとして、皆様と「新しいワクワクする船場」を描いていきたいと思います。

船場倶楽部
理事長 大橋達夫

実施概要

募集内容

	アイデア提案部門	まちづくり提案部門
提案内容	まちづくりのアイデアを自由に提案して下さい。	まちづくりを総合的な見地から具体的に提案して下さい。
募集作品	A 4判1枚	A 1判パネル1枚
賞と賞金	入賞（賞金1万円×5作品）	最優秀賞（賞金20万円 × 1作品） 優秀賞（賞金10万円 × 2作品） 入賞（賞金1万円 × 5作品）
審査方法	審査委員会で独自に選定します。	審査委員会の1次審査で選定のうえ、公開プレゼンテーション（2次審査）で各賞を選定します。
募集期間	2019年4月23日（火）～7月31日（水）	2019年7月25日（木）～7月31日（水）
応募資格	個人、グループ、企業、団体など、だれでも応募できます。国籍、年齢、資格等を問いません。	

審査委員会

委員長	 橋爪 紳也	大阪市 特別顧問・大阪府立大学研究推進機構 特別教授 大阪府立大学観光産業戦略研究所 所長 船場倶楽部 特別顧問
委員	 原田 祐馬	UMA アートディレクター / デザイナー 京都造形芸術大学空間演出デザイン学科 客員教授
委員	 増山 実	放送作家・小説家 小説「勇者たちへの伝言」「甘夏とオリオン」など
委員 (船場倶楽部)	 大橋 達夫	船場倶楽部 理事長 集英連合振興町会 会長
委員 (船場倶楽部)	 杉本 容子	東横堀川水辺再生協議会 株式会社ワイキューブ ラボ 代表取締役

スケジュール

- 告知開始 2019年4月23日（火）
- 質問受付 2019年5月7日（火）～5月31日（金）
- 応募締切 2019年7月31日（水）当日必着
- 一次審査 2019年8月30日（金）
- 一次審査結果公表 2019年9月6日（金）
- 二次審査・表彰式 2019年9月28日（土）

二次審査を公開プレゼンテーションで実施
船場フォーラム2019にて、一次審査通過者（入賞作品）の公開プレゼンテーションと二次審査、表彰式を行いました。

船場フォーラム2019

開催日 2019年9月28日（土）午後
（※フォーラム終了後交流会開催!）
会場 綿業会館（大阪市中央区備後町2丁目）

実施の流れ

船場倶楽部内での提案募集

2018年11月—2019年3月

- 提案コンペに先駆け、船場倶楽部の会員対象に、船場倶楽部でやりたいこと・やってほしいことを募集し、第15回船場フォーラム2019で提案の発表と共有を行いました。
- ここでの提案が、提案コンペの応募アイデアや、先行チャレンジ企画に繋がっていきました。

第15回 船場フォーラム 2019 船場 2030 ～ワクワクする船場のこれから～

第1弾

開催日 2019年3月2日(土) 14:00～17:00
会場 北御堂・津村ホール 大阪市中央区本町 4-1-3
交流会 MEAT DINING River:Ve 17:30～19:00

【プログラム】
船場のこれから——提案発表
次世代の都心のあり方——話題提供（橋爪紳也：船場倶楽部特別顧問・大阪府立大学教授）
車座ディスカッション
船場大会議



船場2030提案コンペ 告知開始

2019年4月23日

- 船場内の施設や店舗、大阪メトロ駅掲示板、公共施設、大学等でのポスター掲示やチラシ配布。新聞やウェブサイト、コミュニティFMなどでも紹介いただきました。



先行チャレンジ企画の開催（全6回）

2019年4月—2019年7月

- 提案コンペのPRと合わせて、いろいろな船場を皆さんに知ってもらいたいという思いから、6つのアイデアを先行チャレンジで実施しました。
詳しくはp.21-22



船場ことば 親子カルタ大会	船場 de ピクニック
船場こども 写真コンクール	船場シネサロン
船場ヘルシー女子 酵素でインナーから美くなる	船場タワーマンション対抗 カラオケ大会

船場2030提案コンペ 応募締切

2019年7月31日

アイデア提案部門 55 作品
まちづくり提案部門 32 作品

多数の応募をいただきました！



船場2030提案コンペ 一次審査

2019年8月30日

- 審査委員による投票及び意見交換を重ね、アイデア提案部門5作品、まちづくり提案部門7作品の入賞作品を選定しました。

開催日 2019年8月30日(金) 13:30~17:30
会場 大阪ガス御堂筋東ビル(OMEビル)3階ホール



船場2030提案コンペ 企業冠賞の選定

2019年9月

- 大阪ガス(株)、大阪シティ信用金庫、田辺三菱製薬(株)の3社より、企業冠賞進呈の申し出があり、作品を選んでいただきました。

船場2030提案コンペ 二次審査・表彰式

2019年9月28日

- 第16回船場フォーラム2019において、まちづくり提案部門・一次審査通過者(入賞作品)の公開プレゼンテーションを実施しました。
- その後、別室にて審査委員による二次審査を経て、まちづくり提案部門の最優秀賞、優秀賞、そして急遽設けられた審査委員特別奨励賞が選ばれ、アイデア提案部門の入賞作品とともに表彰を行いました。



第16回

船場フォーラム 2019 船場2030

～ワクワクする船場のこれから～

第2弾

開催日 2019年9月28日(土) 14:00~17:00
会場 綿業会館・大ホール 大阪市中央区備後町2丁目
交流会 MEAT DINING River:Ve 18:00~19:30

[プログラム]

船場2030提案コンペ実施経過報告
まちづくり提案部門・公開プレゼンテーション
先行チャレンジ企画の報告 一別室にて二次審査・
表彰式
座談会～ワクワクする船場のこれから～



総評：船場のまちづくりの今後に向けて

大阪府特別顧問・大阪市特別顧問

大阪府立大学研究推進機構特別教授・大阪府立大学観光産業戦略研究所所長

船場倶楽部特別顧問

橋爪 紳也

私たちが、「船場げんき提案」と題して、まちづくりへの提案を求めたのは2001年のことです。「げんき提案」という言葉には、地域が活力を喪失していたがゆえに、新たな魅力を高める提言や活性化の工夫が必要であるという想いが込められています。

バブル経済の破綻ののち、船場のポテンシャルは低下しました。金融センターとしての機能は薄れ、また産業構造の転換によって各種の間屋街も打撃を受けました。新しいオフィスが中之島や梅田に集積をしたこともあり、かつての都心である船場の空洞化に拍車がかかりました。私は、従来の業務地区から脱し、複合的な用途の都心として再生したいと考えていました。そのためには都心の環境を改め、都市魅力を高めつつ、事業所やオフィス専用のビルではなく複合的な施設を設け、またSOHO型の集合住宅を増やすことが必要であると考えました。

このコンペでの提案を受けて、問題意識を共有するグループを連携する「船場げんきの会」を立ち上げました。私たちは、従来は縁のなかった方々にも船場のまちづくりに関与してもらいたいと想い、これまで活動を継続してきました。また三休橋筋のプロムナード化も、「船場げんき提案」から始まった事業です。

その後、近年になってようやく状況が変わりました。空洞化した船場にも、間屋やオフィスの跡地に新しいホテルやタワーマンションが建設されつつあります。ファミリー層を意識したマンションも分譲されるようになり、小学校の教室が不足するのではない

かという懸念も生じています。いっぽうで、外国人観光客を意識した店舗、高級感のあるレストランも目につくようになりました。かつての中心業務地区は、「職住遊」の各要素が混じあう「複合都心」へと変貌を遂げつつあります。

2025年には大阪・関西万博の開催が予定されています。大阪は、新たな都市改造の局面を迎えます。転換の時期にあるからこそ、船場地区の再度のブランディングが必要だと私は考えました。次世代の船場地区のまちづくりに向けて、新たなアイデアや事業提案を求める提案コンペを実施したいと提案をしました。結果、多くの方の協力を得て、今回、「船場2030提案コンペ」を実施することができました。

今回のコンペを通じて、大学生も含めて、これまで船場にさほど縁がなかった専門家の意見を聞くことができました。とりわけ社会実験を経て、道路や公開空地といった公共空間を利活用するという提案が多くを占めました。世界各地で、自動車優先のまちづくりから、歩行者や自転車、あるいは公共交通空間の利用を増やすモーダルシフトの実践が進められています。また自動車や自転車のシェアリングも盛んです。船場でも、歩いて楽しめる街区への転換が必要であるという想いを、多くの人が持っていることが判りました。2030年に向けて、今回の提案のいくつかが実現していることを期待しています。また提案されたアイデアを幾つか組み合わせることで、より魅力的な事業が可能になるように感じました。

ただいっぽうで、2030年に向けた社会のパラダイムシフトや、その先にある理想とする都市のビジョンを示す提言が少なかったのは、いざさか残念でした。将来的にどのような都市空間をかたちにしたいのか、強い想いがなければ、市街地をリビングラボとして、さまざまな社会実験を行う意味も必然性も見出されません。

私が考える課題のひとつは、他都市とは異なる価値の創造にあります。かつて船場は、日本各地の人が憧れる都心でした。船場で就業、商いを学んだ人々は、新たなビジネスを創案しました。いっぽうで文楽などの文化も生み出されました。

才覚ある人々が集い、多くの若者が可能性を見出す街として、船場を再興することが求められます。そのためにも都市環境や都市魅力の向上は不可欠です。ただ今日の船場には劇場や文化施設は乏しく、新たに建設されるタワーマンションに個性を見出すことができません。公園や緑地も少なく、子供たちが花火を楽しむ空地もありません。いっぽうで、かつてこの都市の物流や人流を支えた舟運の動線である川筋はモータリゼーションの進展に応じて高速道路に提供されました。

私はこれまで、中之島の水際を再生し、夜間景観の演出性を高め、また近代建築や文化的景観を訴求するなど、船場の魅力向上に尽力してきました。ただ新たなコミュニケーションの場づくりや、文化創造の拠点を確保することなど、まだまだなすべきことがあると考えています。

都市は、停滞することはあっても、絶えざる変化を続けています。船場は、近世における城下町建設にさかのぼる歴史のある都心です。多くの商人や職人たちが集まり、街は発展をみましました。さらに近代にあって、堺筋や御堂筋などの街路を拡幅、都市計画に基づいた業務地区へと転じます。「東洋のウォール街」と呼ばれた金融街である北浜界限、薬種商が製薬会社へと発展したことで繁栄をみた道修町、繊維問屋街の井池など、個性的な界限の集積が船場の個性となりました。さらに戦後復興から高度経済成長期を経て、多くのオフィスビルが建設され、大阪を牽引する業務地区としていっそうの発展をみましました。

船場はこれからも、おおいに変化してゆくことでしょう。ただそこにあって、かつての「憧れ」を回復する試みが必要です。日々、何かワクワクする出来事が起こり、常に未来に向けて変化している、多くの人が期待を持つような仕組みが求められます。大阪人の誰もが誇りに思う、船場の文化と誇りを再興しなければいけません。船場地区の再度のブランディングが必要だと考えます。

今回、「船場2030提案コンペ」に多くの提案が寄せられました。その成果をもとに、船場発の新たなまちづくりの動きが拡がることを、おおいに期待しています。もちろん私たちも、さまざまな担い手とよりいっそう連携を深め、船場をより魅力的にする活動を継続してゆく覚悟であることを強調して、総評の結としたいと思います。

優秀賞

船場コンシェルジュ
～出会いで紡ぐ船場ブランド～

STUDIO_C

塩原 裕樹・安田 康佑・鈴木 一徳・森山 広崇



【講評】

「〇〇についてはこの人に相談したい」など、人をつないできたのが船場の良いところ。そのような昔の良さを残していきたいという、船場倶楽部の想いと合う提案だと感じました。また、他にも同様の提案があった中で、より人のつながりというソフト面を重視した提案になっています。(大橋審査委員)



1. CONCEPT: 船場だから、という気概こそが「船場ブランド」

2. METHOD: 2つの出会いを紡ぐセンプラ・コンシェルジュ

3. MESSAGE: センプラ・バンク: コンテンツを生み出す出会い

4. MESSAGE: センプラ・クロス: コンテンツを広めるあの出会い

5. MESSAGE: 24時間365日活かに溢れ、みんなが誇れる街へ

優秀賞・田辺三菱製薬賞

船場を編む

チームかなげん

中田 大貴・武島 侑里・舟橋 未乃里

【講評】

商家の暖簾を地域の活性化に活用する提案や実践は、地方都市でも見受けられます。対して暖簾をスケールアウトさせて、人々の関心を都市に向けさせるツールとする発想はほかにはない。場所に応じたユニークなデザインの「巨大暖簾」が随所に出現すれば、船場の新しい象徴となるだろう。(橋爪審査委員長)

【講評】

製薬会社の冠賞なので、提案作品に薬の町「道修町」や薬に関連する提案があればよいと期待していましたが、薬の原料にもなる染料で染めた「暖簾」で町を編んでいくアイデアに注目しました。商人の町「船場」らしい「暖簾」を大胆に使用して町を変えていける実現可能性も評価しました。(田辺三菱製薬(株))

船場を編む

1. 背景

2. フェーズ

3. マネジメント

4. 暖簾の活用

5. まちの空白

6. 暖簾の活用

7. まちの空白

8. 暖簾の活用

9. まちの空白

10. 暖簾の活用

11. まちの空白

12. 暖簾の活用

13. まちの空白

14. 暖簾の活用

15. まちの空白

16. 暖簾の活用

17. まちの空白

18. 暖簾の活用

19. まちの空白

20. 暖簾の活用

21. まちの空白

22. 暖簾の活用

23. まちの空白

24. 暖簾の活用

25. まちの空白

26. 暖簾の活用

27. まちの空白

28. 暖簾の活用

29. まちの空白

30. 暖簾の活用

31. まちの空白

32. 暖簾の活用

33. まちの空白

34. 暖簾の活用

35. まちの空白

36. 暖簾の活用

37. まちの空白

38. 暖簾の活用

39. まちの空白

40. 暖簾の活用

41. まちの空白

42. 暖簾の活用

43. まちの空白

44. 暖簾の活用

45. まちの空白

46. 暖簾の活用

47. まちの空白

48. 暖簾の活用

49. まちの空白

50. 暖簾の活用

51. まちの空白

52. 暖簾の活用

53. まちの空白

54. 暖簾の活用

55. まちの空白

56. 暖簾の活用

57. まちの空白

58. 暖簾の活用

59. まちの空白

60. 暖簾の活用

61. まちの空白

62. 暖簾の活用

63. まちの空白

64. 暖簾の活用

65. まちの空白

66. 暖簾の活用

67. まちの空白

68. 暖簾の活用

69. まちの空白

70. 暖簾の活用

71. まちの空白

72. 暖簾の活用

73. まちの空白

74. 暖簾の活用

75. まちの空白

76. 暖簾の活用

77. まちの空白

78. 暖簾の活用

79. まちの空白

80. 暖簾の活用

81. まちの空白

82. 暖簾の活用

83. まちの空白

84. 暖簾の活用

85. まちの空白

86. 暖簾の活用

87. まちの空白

88. 暖簾の活用

89. まちの空白

90. 暖簾の活用

91. まちの空白

92. 暖簾の活用

93. まちの空白

94. 暖簾の活用

95. まちの空白

96. 暖簾の活用

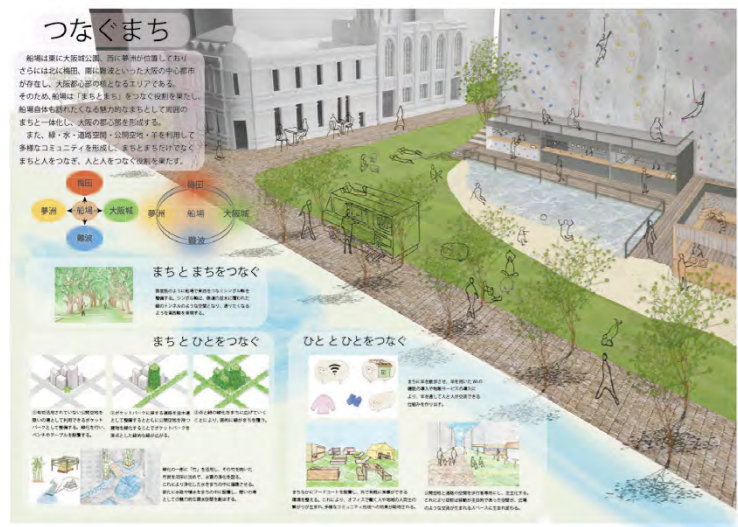
97. まちの空白

98. 暖簾の活用

99. まちの空白

100. 暖簾の活用

審査委員特別奨励賞



「つなぐまち」

立命館大学都市計画研究室
 倉田 紘平・辻 寛太・三吉 寛幸・山際 大貴・
 石井 拓弥・大橋 克矢・
 福井 誠・酒井 智弘・廣瀬 速人

【講評】

船場のまちの中で、羊を飼う。羊で「人と人」「人とまち」をつなぐ。よくわからないが、飛びぬけていてどこかワクワクする面白い発想です。シンプルなアイデアだからこそ、今後アイデアをうまく積み上げていけば、強い発信力になると思います。船場は毛織会館もある繊維のまちで、羊との親和性もありますね。(増山審査委員)

入賞



街路の風景

～継続的な社会実験のデザイン～

大阪大学大学院
 井口 奏子

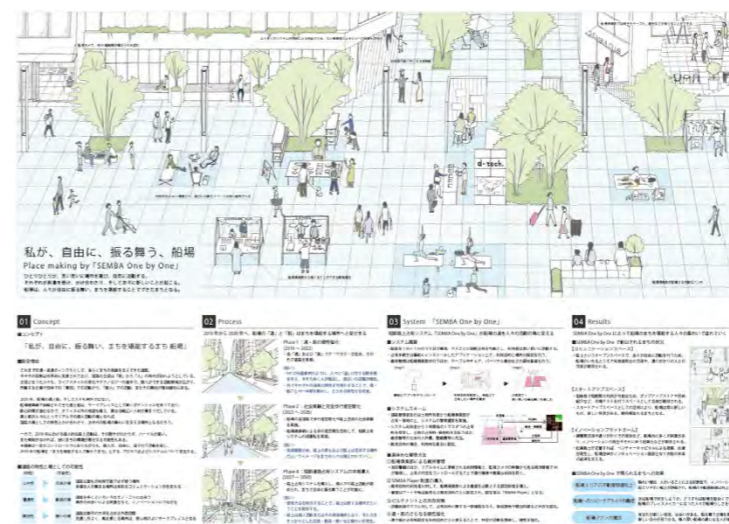
【講評】

公開空地を活用する社会実験の提案はさまざまありましたが、金曜の夜に限定して、都心における週末のナイトカルチャーをより魅力的なものにするという発想は他にはありませんでした。街路を使いこなす方針に関して、ひろくアイデアを募集し、そのものをイベント化している点も良い。船場を、多くの人が実験を重ねつつ新たな課題解決方法を共創する、いわゆるリビングラボとする発想が感じられます。(橋爪審査委員長)

入賞



入賞



Walkable 船場

～次世代カンマチ
 居心地が良く歩きたくなるまちなか～

バルセロナ7
 三好 正人・星野 幸世・二見 恵美子・
 土江 仁子・米田 佳代・月ヶ洞 利彦

【講評】

バルセロナで実施されているスーパーブロックの制度を参考に、船場を対象に複数街区を単位として歩行者を優先する街路を確保しようとする提案です。歩行者優先のまちづくりに関する実践は、自動車の通行をすべて遮ろうとするものが多いが、車両の制限速度を低速に抑えることで歩車が共存できるまちづくりの可能性を示している点がユニークです。御堂筋の側道における歩行者空間化のインパクトを、船場全体に面的に展開しようとする試みとしても評価することができます。(橋爪審査委員長)

私が、自由に、振る舞う、船場

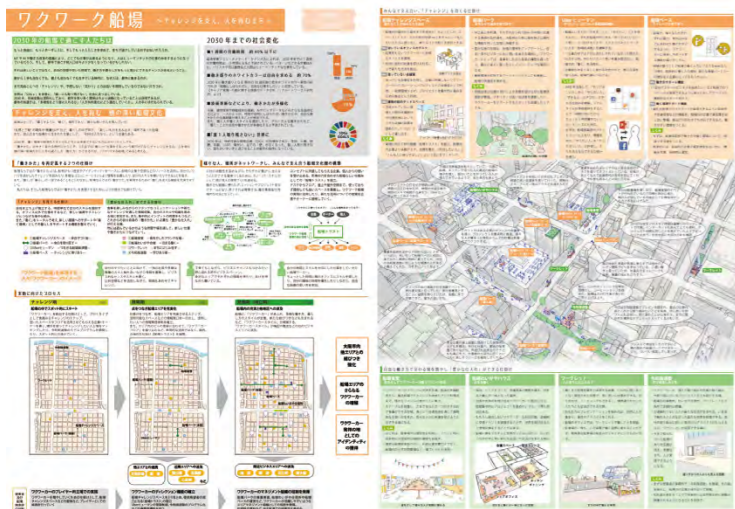
Place making by 「SEMBA one by one」

竹中工務店
 栗山 康輔

【講評】

誰かが船場でお店を出したいと思ったときに、こういう方法もあり得ると思わせる、リアリティのある提案でした。まちを自由に使いたい利用者和管理運営を行う船場倶楽部、双方の視点がかみ合ったアイデアと感じました。このような仕組みであれば、将来的にまちで維持管理ができるかもしれません。(大橋審査委員)

大阪ガス賞



ワクワーク船場

～チャレンジを支え、人を育むまち～

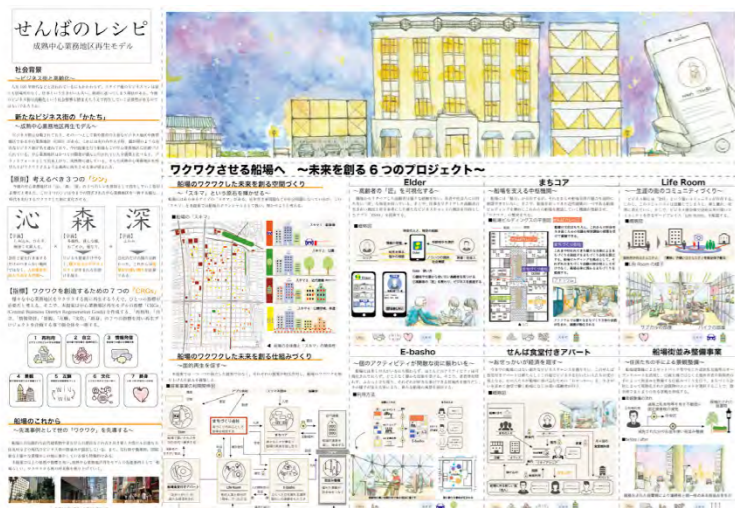
ワクワーカーズ

橋本 晋輔・羽田 拓也・塗師木 伸介・
中川 貴美子・絹原 一寛

[講 評]

全体的に「まちなみ」に注目した提案作品が多い中で、かつて商人のまちとして繁栄した船場で働くことに改めて注目した本作品の着眼点を評価します。そして単に働くだけでなく、新たなチャレンジを育てる仕掛けを考えている点が秀逸と考え、大阪ガス賞を贈呈させていただきます。(大阪ガス(株))

大阪シティ信用金庫賞



せんばのレシピ

～成熟中心業務地区再生モデル～

千葉大学 融合理工学府 地球環境科学専攻
都市環境システムコース 都市空間計画領域
下泉 浩太・井澤 佳織・渡邊 暁

[講 評]

本取組は、「船場」というブランド、インフラ、そこに住む人、これらを繋いで1つのビジネスにしていこうという提案で、地域交流を促進し、コミュニティを育む我々の理念と合致しています。夢と実現可能性のある良い提案であることから、大阪シティ信用金庫賞に選定させていただきました。(大阪シティ信用金庫)

船場・手持ち花火大会

浜本 由紀



[講 評]

色鉛筆の手描きの絵、「助けてください」の心からメッセージ。まちに暮らす人のリアルな想いが伝わるアイデア提案でした。「手持ち」の文字が小さく描かれているのも洒落てますよね(^)まちなかでは本当に花火をする場所がないので、実現したらたくさん子ども達が参加すると思います。ぜひ一緒に実現しましょう！(杉本審査委員)

都会の真ん中(船場)で
葡萄を育てワインを造ろう
ホップを育て地ビールを愉しもう

緑の星
土江 仁子・祐田 尚紀・二見 恵美子



[講 評]

都市型のブルワリーは増えていますが、畑は郊外というスタイルが一般的なためチャレンジしてほしいです。ランドスケープとしても、街中でつくっている風景が可視化され面白いと思います。実際はどこまでの収穫があるかわかりませんが、船場で取れた材料を活用することがブランドづくりにつながります。(大橋審査委員)

歴史ある「船場」をブランドとして
高めるため、
「船場」を冠した町名に改める

日比 哲夫



[講 評]

「船場の範囲が認知されていないので、いいアイデア!」という原田委員のご意見。ずっと船場に関わっている人からすると、大切な旧町名を変えるとは?!とショッキングな部分も否めない斬新さですが、あらためて外からの視点で考えてみる大切さに気付かされた提案でした。(杉本審査委員)

船場 ケンチク借景 カフェ

濱田 未知



[講 評]

船場に数多く残っている近代建築は近年、その存在も注目され、見学ツアーなども盛んに行われているようです。そんな中で、「借景」という考え方は新しいと感じました。お茶を飲みながら「船場の風景」を愛でる。船場だからこそできるアイデアです。空きスペースを利用して「移動式カフェ」をやってみるのも面白いかもしれません。(増山審査委員)

「船場カーフリーデー&ウィーク」
～大阪の中心・
船場を歩いて楽しいまちに～

御堂筋サイクルビクニッククラブ
藤江 徹・塚村 真美・新田 保次・
井上 守・藤本 典昭



[講 評]

たとえば静岡の大道芸ワールドカップなど、イベントに応じて都心を歩行者に開放する試みは各地であります。しかし1週間などを単位に自動車を締め出すことを主目的とする催事はほかにはないのではないでしょうか。構想を実現するには高いハードルがありますが、いくつかのブロックなどからでも実施して、機運を盛り上げることがあって良いでしょう。(橋爪審査委員長)

まちづくり提案部門 応募作品一覧

		提案者名 (敬称略) (グループの場合代表者)		
大阪ガス賞	1	ワクワーク船場 ～チャレンジを支え、人を育むまち～	橋本 晋輔 他4名	
	2	後退空間の再生で船場のパブリックライフを豊かにー船場建築線指定100周年記念プロジェクトー	坂井 信行 他7名	
	3	歩車共存から歩者共創へ	吉野 和泰 他2名	
	4	生きた街船場	石原 稜大	
	5	ART IN SENBA	岡部 兼也 他1名	
	6	世界樹ー文化を伝える都市の中の森～	阿部 克哉 他3名	
	優秀賞・田辺三菱製薬賞	7	船場を編む	中田 大貴 他2名
		8	道のシエスタ、街のシエスタ	村上 雅貴 他2名
		9	船場 道 (未知) の可能性 ～街を彩り、人の居場所を創る～	奥坂 昇太 他1名
		10	谷あいの水小路 - 太閣下水の復活による新たな往来滞留空間の創出 -	影山 巽基
		11	ECO MOBILITY SENBA 船場の魅力を繋げるサイクリングエリアという新しいまち	重田 真貴人 他1名
		12	都市のよりしろーフレームと時間概念導入による第三の公開空地の提案ー	原 裕一郎 他1名
	入賞	13	SEMBA New Property Ward [船場新財産区]	好川 拓
14		街路の風景ー継続的な社会実験のデザイナー	井口 奏子	
入賞	15	軒をまとう街ーある少女の街をデザインするー	化生 真依	
	16	Semba POP-UP	能登 俊平	
入賞	17	Walkable船場 ～次世代カンマチ 居心地が良く歩きたくなるまちなか～	三好 正人 他5名	
	18	一掃・然・創・続・商・都ー	堀川 孟史 他5名	
	19	べっぴん船場 (ひと味ちがう船場の楽しみ方)	木村 晃久 他3名	
優秀賞	20	船場コンシェルジュ ～出会いで紡ぐ船場ブランド～	塩原 裕樹 他3名	
	21	はためくまち船場	西川 侑見	
入賞	22	Through を軸にした流動的な居場所とランドスケープの提案	河本 俊登	
	23	私が、自由に、振る舞う、船場 Place making by [SEMBA one by one]	栗山 康輔	
最優秀賞	24	Food Salvation City ～SEMBA～	美濃 秀彰 他2名	
	25	船場 2030 銀河都市づくり プラットフォーム	庄司 悦治	
審査委員特別奨励賞	26	船場のブランドを再生させる	小串 勇貴 他7名	
	27	船場二〇三〇グリーンベルト・アーバンサイン	佐々木 一泰	
	28	「つなぐまち」	倉田 紘平 他8名	
	29	船場に染み込む5滴の雫	田島 佑一朗 他1名	
	30	「隙」間から「好き」間へ	杖村 滉一郎 他1名	
	31	「交園」のある商都 市民がつくる歩行者ネットワークの提案	小日向 孝夫 他2名	
大阪シティ信用金庫賞	32	せんばのレシピ ～成熟中心業務地区再生モデル～	下泉 浩太 他2名	

アイデア提案部門 応募作品一覧

		提案者名 (敬称略) (グループの場合代表者)	
入賞	1	街角deダンス&音楽バー	平林 和彦
	2	船場・手持ち花火大会♪	浜本 由紀
	3	船場ファッション	上島 仁
	4	「回転する壁を持つ屋台」	山田 寛
入賞	5	「Heart of Osaka 船場」ー「Semba人」ともにつくるー	前川 洋一郎 他5名
	6	都会の真ん中(船場)で葡萄を育てワインを造ろうーホップを育て地ビールを愉しもう	土江 仁子 他2名
	7	船場キャンピィー計画	畠山 庄司

入賞	8	歴史ある「船場」をブランドとして高めるため、「船場」を冠した町名に改める	日比 哲夫	
	9	「船場ミュージアムシティ構想」	竹内 正人 他7名	
	10	『大阪春秋』との連携による、船場の魅力に関する「情報発信」、並びに、歴史文化に関する情報・資料収集等の窓口を創る。	長山 公一 他3名	
	11	船場は復活し、“(大阪) セントラルプレイス” (略称：センプレ) へ	江見 裕明	
	12	南北の結節点としての「船場」	森 正男	
	13	ー船場再起動ー万博開催を契機に、大阪の真ん中の「船場」が大きく変わる！	池永 純造 他1名	
	14	歴史の戦、ここに再現、	柳谷 太一 他1名	
	15	1/1スケール豊田秀吉のホログラム	山崎 光誠 他1名	
	16	コンピュータホログラムを用いたまち案内	橋村 直柔 他2名	
	17	大面積ホログラムによる巨大3D画像広告の展示	中本 健太 他1名	
	18	三休橋筋のガス燈と無電柱化を中央大通より長堀通まで延長の提案	小山 晶子	
	入賞	19	まちごとみちごと公園プロジェクト	濱田 未知 他2名
		20	船場 ケンチク借景 カフェ	濱田 未知
		21	船場の御土居 (おどい) ランニングコースの整備とマラソン大会の開催	福岡 俊之
		22	水辺にとけ込む暮らし	畠田 恵
		23	Senba Underpass Park	南 大輝
		24	船場基盤目を活かした「せんばみ」空間によるヒアアフター (hereafter) 発信	朝倉 修一
		25	界筋歩行者道路のデザイン	川原 将貴
		26	80年前の船場と現在・将来を見据える	福地 一晃
27		船場のれん	奈木 仁志	
28		船場にみどりのたまり場を	猪飼 洋平	
29		次世代を支える「商人」を呼び戻そう	大西 正一	
30		あなたも私も船場街歩きガイド! 船場検定を創設して、外からのお客様を案内して「おもてなし」	小橋川 茂子	
31		2030年の船場への提案 Hospitality、Hotel、Hospitalの語源は“Hospes”	田中 一	
32		駐車場空地をまちなみに変える事業提案	千葉 桂司	
33		“キッズ1000モール”の創造	西脇 園博	
34		フレンドリー船場! ～海外の人々と船場の人たちが繋がる～	永野 馨子	
35		☆SENBA KID'S AKINAI PROJECT☆	正畑 綾子	
36	自分たちで作る・夢をかなえる「船場 de ウェディング」	久保田 真弓		
37	大阪のど真ん中 船場でウォークラリー!	久保田 悠喜		
38	映画を観るならやっぱ船場やねん	廣瀬 愛 他3名		
39	船場の川で水上散歩	徳野 なつみ 他3名		
40	船場でどおりっ	矢野 湖々 他1名		
41	「5G + ローカル5G」と「顔認証システム」で、安心・安全で快適な船場ライフを!	浅田 信行		
42	若い職人や技術者の力でALL船場産の特産物を地場産業に	中井 深		
43	IT でつながる! 「今日からあなたも 船場人」	久保田 正義 他1名		
44	Made in Semba ～世界にひとつだけの服～	吉田 有里 他1名		
45	AR×船場＝観光	平田 貴嗣 他2名		
46	ブラジル日系人の経営するIT企業を誘致して いつまでたっても若いまち 船場	大賀 清雄		
47	船場に行コトッ! - 綿を売る場所から「使う」場所へ-	奥山 葵 他6名		
48	定住者人口を増やせ!! 船場をげんまに!! ～関係人口創出プロジェクト～	林 由以子 他5名		
49	Semba loop	大西 正英		
入賞	50	「船場カーフリーデー&ウィーク」～大阪の中心・船場を歩いて楽しいまちに～	藤江 徹 他4名	
	51	船場でバーベキュー! ビル周辺の公開空地を公園に	池山 博文	
	52	まちかど人力移動図書館 - 船場文庫 -	詫間 友香里	
	53	船場ビルディングタイプーレトロな「表」と緑繋がりの「裏」ー	山本 拓朗	
	54	「Wind of Scent船場」	米田 佳代	
	55	「神農さんカップ」(東京オリンピック前の2020.5 GW期間中に開催) SUB「道修町通・三輪車4時間耐久レース」と「屋台宴」	金本 信博	

第16回 船場フォーラム2019

座談会

～ワクワクする船場のこれから～

進行役 杉本 容子

杉本：審査の過程でもいろいろ面白い議論がありました。まず、最優秀賞を選んだ理由を伺います。

増山：コンセプトが船場の「始末」という精神に基づいている点が好きだと思います。それだけでもやる意味があると思います。目標を2030年に設定していますが、この試みが例えば50年後100年後、世の中に浸透したとき、「いや、実は何十年か前に船場から始まった」といわれるような、大きな流れの起点になれば、とても社会的意義があります。いろんなハードルがあるとは思いますが、ぜひ実現させたいと最も強く感じたのがこの作品でした。

杉本：その点は審査委員全員の一致した思いでした。世界とつながる、社会とつながるという切り口も新しく、総合的に細かいところまで提案しているところが評価のポイントだったと思います。

大橋：我々船場の人間には、言い出した「言い出しべえ」が自らやるという考え方があります。「やってみなはれ」と応援したくなるような提案を評価したいと思いました。最優秀作品は、ほかにない試みでチャレンジングなアイデアでしたが、この提案だけでなく、ヒツジもコンシェルジュも、がんばる人たちがいれば、ぜひ船場倶楽部として応援したいと思います。

杉本：提案だけでは終わらせてくれない?!手強いまちだなと思いますが、最優秀賞を受賞された関西大学チームを代表して鴨川さん、いかがですか。

鴨川：実現性という部分については、私たちも正直不安でしたが、フード

パネリスト／ 橋爪 紳也

サルベージはSDGsの課題の1つでもあるので、それを持続的な都市と持続的な消費者の立場で考えて、今はなくても、これからそういう考え方がスピードアップし、いろんなアイデアがまとまる方向に行けばいいなと考えました。

杉本：どうすれば一緒に実現できそうか、我々からも逆提案しないといけないかもかもしれませんね。ぜひ皆さん、明日から「マイ箸」を持っていただき、協力してくれるお店があればぜひ皆で盛り上げていきたいと思います。

進行役 杉本 容子

杉本：さて、今回、アイデア部門も含めて本当にたくさんの応募をいただきました。入賞作品の中で、ぜひ皆さんに紹介したいものを、全体の感想と併せて審査委員に伺います。

橋爪：船場で花火大会をするという、お子さんと一緒に出されたアイデアが印象に残りました。船場はもともと公園が少ないですが、今は船場のまちが激変し、子育て世代のマンションもどんどん増え、小学校の教室が足りなくなっています。10年前の空洞化に悩んでいた船場とは全く違う動きの中で、お子さんと一緒に花火をするというのは、子育て環境を整備するということを象徴的に一言で言い当てている気がします。そういうまちの変化に応じた提案がもっとあっていいと思いましたが、まだまだそこが少なかったと思います。

杉本：今回のコンペでは、いろんな視点からの提案を大事にしようと考え、アイデア部門をつくりました。個人、主婦、フリーランスなど、いろんな方が応募してくださったので、参加していただける方々の裾野を広げる一歩が踏み出せたのではないかと思います。

増山

増山：私は、頭にバツとイメージが浮かんだのがヒツジです。1次審査は当初5作品まででしたが、これを落とすのはどうしても惜しくて、選考の最後に、どうもこれが何か気になると言いました。すると、皆さんも確かに気になるとのことで、急速、枠を広げ、今回の2次に進んだという経緯があります。今回のプレゼンを聞いて、橋爪先生は思ったほど具体性がなかったというご意見でしたが、私は割と具体的だと思いました。

杉本：最後に、こういうまちづくりコンペを、まちづくり団体が主催して行なうのもそうあることではありません。どう実現していくかだけでなく、この新しい皆さんとの出会いを、どう次へ繋げていくかが1つの大きなポイントになると思いますが、いかがですか。

増山：入賞作品の提案にもありましたが、コンペをして盛り上げる、多様な意見を取り入れ、集めることが大事だと思います。今回も多くの応募がありました。これに応募しようというモチベーションが上がる仕組みをうまくつくることで、もっと応募が集まり、ユニークなものも増える可能性があると思います。

大橋：今回のコンペには、学生さんや若い人が多く参加してくれました。いつも船場倶楽部で会議をしていても年配者が多いので、こういう若い人の活力、考え方が絶対に必要です。本日この後の交流会でもみんなと知り合って、いろんな意見を聞いて、新しい船場を考えていくようにしたいと思います。

鴨川：学生は活動範囲・視野が限られ、経験も少ないので、どうしても提案に現実味がありません。提案を組み合わせたり、全く違う案を入れたりして発展させていけば、本当に皆さんが応援してくれるようなものが生まれ、進化していくのではないかと感じました。

杉本：数年前の船場フォーラムでの「船場女子会をしよう」という議論がきっかけとなり、昨年、船場女子会が立ち上がり、異様な盛り上がり

を見せています。本日の司会も、船場女子会の縁で玉木さんをお願いしています。このように、今回もぜひ、提案してくれたメンバーでアフターコンペチームのようなものをつくり、アイデアを組み合わせるともっと実現性を高め、発展していったらすごく楽しいのではないかと思います。

杉本：座談会の最後に、審査委員長の橋爪紳也先生から、閉会の挨拶を兼ねてコメントをお願いします。

橋爪：私は大阪の都心で生まれ育ちました。船場は、私の心の故郷です。2001年に船場に関するまちづくりコンペを実施したのち、今日にいたって状況が変わりました。空洞化した都心が再生する段階に入るなかで、未来の船場を語り合えるようなアイデアが欲しいと考えていました。そのため、まちづくりコンペを再度、実施したいと言い続けて、すでに10年が経ちます。本日この場を迎えることができて感無量です。私の問題意識は幾つかあります。ひとつはまちを変えようという強い意志の必要性です。たとえば今回の提案のなかに、公共空間をいかに使いこなすかという提案が幾つもあり、その手段として社会実験という言葉が多く使われていました。しかし、こういう場合の社会実験とは、とりあえず何か楽しいことをトライしてみるといったものではなく、「こういう状況にしたいが、現状の規制下ではできない。それができるように社会を変えよう」という強い意志を持ち、緩和を求めていくものです。そのような強い意志のこもった迫力ある提案を期待していましたし、今後も求めていきたいと思います。強い意志があればみんなでサポートし、夢を叶えることができます。もう1つの問題は、地域への想いを集める機会の重要性です。船場には多くの働く方々がおられるにもかかわらず、人々の地域への想いが強いとはいえない。新しい住民も多く、観光客も多いのですが、互いに関わることなくこのまちを使っています。その人たちの思いを繋げる、強く想いのあるプロジェクトが必要です。何か想いを集めるもの、それは場所でも、祭りでも、ネットワークのサロンでも、何でも構いません。だから入賞された提案にある花火やヒツジが大事なのではなく、それらを媒介として人と人が繋がることが重要なのです。船場で暮らす人、働く人、滞在する人、みんなの心の抛り所をもっと増やしていきたいと考えてきました。船場倶楽部の活動は、双方を満たすものです。船場に関わる多くの人々の想いを集める機会を提供しつつ、まちを変えていこうと立ち上がりました。今後ともぜひ船場というエリアを、皆さんでアピールしていただき、我々の仲間になってくれる人が、また企業が増えればと思います。

先行チャレンジ企画の開催

提案コンペのPRと合わせて、いろいろな船場を皆さんに知ってもらいたいという思いから、6つのアイデアを先行チャレンジで実施しました。

2019年4月20日(土) 14:00~15:30
船場ことば親子カルタ大会

親子でカルタ遊びを楽しみながら、今の子どもたちとその親の世代に船場の文化を伝えたいとの思いから企画しました。2歳から小学校6年生までの子どもと親御さん、台湾からの留学生も参加して、とても賑やかな会になりました。お父さんに読み手として参加してもらえたことも、新鮮でした。参加者の交流タイムも充実したものになりました。

会場 / 彩食館 門2階 (道修町3丁目)



2019年5月25日(土) 11:00~16:00
船場 de ピクニック

船場の公開空地を有効活用して、みんなで楽しくBBQなどをしたいと思ったことがきっかけでした。BBQは実現しませんでした。まちなかでピクニック気分を味わえるイベントを開催。新旧住民、海外からの旅行者など多くの方が立ち寄り、思い思いに休日の午後を楽しまれました。「次はいつやるの?」というお声も多数いただきました。

会場 / 田辺三菱製薬(株)本社ビル前 (道修町3丁目)



2019年5月10日~7月31日(募集期間)
船場こども写真コンクール

テーマは「船場のここが好き」。子どもの目から見た船場のまちを写真に撮って応募してもらいました。船場のなかにある開平小学校の児童も多数参加してくれました。開催後は、三菱UFJ銀行大阪本店ギャラリー、東急ハンズ心斎橋店で作品展示も実施しました。

表彰式 / 9月28日 (第16回船場フォーラム2019にて)



2019年6月22日(土) 17:30~
船場シネサロン

かつて北浜の三越百貨店の最上階にあった三越劇場に通っていた映画好きを、再び船場エリアに呼び戻したいという思いから、船場のクラシックな近代建築ビルで上映するサロンを企画しました。上映後には感想を語り合う時間も。この映画をもう一度観たかったから嬉しかったという感想もいただき、映画好きの皆さんに楽しんでいただきました。

会場 / 芝川ビル モダンテラス (伏見町3丁目)



2019年5月20日(月) 18:30~20:30
船場ヘルシー女子—酵素でインナーから美くなる

船場を「知って、興味を持って、関わって」頂き、そのなかで特に女性の声を聴ききっかけにならないかという思いから企画しました。イベント当日は、参加者同士での意見交換や質問等も活発に行われ、イベント後は参加者が個別にお店に来訪したり、情報交換したりなど、新しい交流に繋がっていると嬉しい反応もいただいています。

会場 / アンチエイジングカフェ age (平野町1丁目)



2019年7月15日(月・祝) 15:00~16:30
船場タワーマンション対抗カラオケ大会

タワーマンションが林立する中、新しい住民同士が繋がれる共通の場所・趣味ができれば、との思いで企画しました。出場者の募集には開催直前まで苦労しましたが、船場在勤の方々、飛び入り参加の方々とともに、賑やかなカラオケ大会となりました。出場者の皆さんのレベルの高さに驚き、船場の底力を感じました。

会場 / 集英地域コミュニティプラザ (本町1丁目)



船場とはどんなまち

船場の位置と特徴

船場は、北は土佐堀川、東は東横堀川、南は旧長堀川（現長堀通）、西は旧西横堀川（現阪神高速道路）に囲まれた南北2.1km、東西1.1kmの約230haの区域をいいます。港から大阪城に向かって、船場のまちは東西の「通」を軸として発展、これに南北の「筋」が交わる格子状のまちがつけられ、今もまち割りが残っています。

明治以降、堺筋や御堂筋等の整備により、人の流れは南北の「筋」が中心となりました。通りや筋の沿道には、現在も数多くの近代建築はじめ歴史的な建物が残り、まちの変化を見ることができます。

船場400年のあらし

船場は、豊臣秀吉による大坂城築城に合わせ、西側の砂州を埋め立てて生まれたまちです。大坂夏の陣、明治維新、戦災と、船場は幾度も壊滅的被害を受けますが、その度に新たな人々を惹きつけて蘇り、かつての伝統と融合して新しい時代の船場の魅力を創り出してきました。

水運の拠点から商都へ

江戸幕府直轄地後、さらに埋め立ては拡大され、船場は水運の拠点となり、全国から人と富と情報を集積、大坂が城下町から経済都市に変容します。船場では金融・薬・繊維・輸入雑貨などの問屋が繁栄します。

商都大坂の中心から町人文化の発信

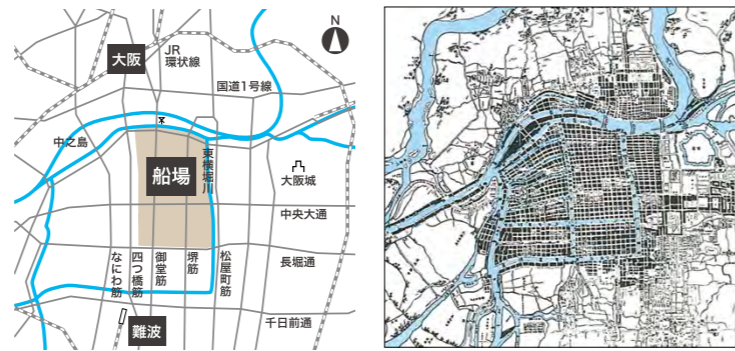
この間、近松門左衛門に代表される文芸・芸能はじめ、多くの町人学者を輩出した懐徳堂など、なにわ商人の誇りある町人文化が育まれ、継承されました。

近代化による大大阪へ

明治維新により、大阪の経済的基盤は壊滅的打撃を受けますが、その後急速に工業都市化し発展。大正期には「大大阪」と呼ばれる時代を迎え、モダンで最新の都市文化スタイルを創造しました。

新しい都心の魅力を求めて

戦後の復興を支えてきた船場も、1970年代から繊維不況や産業構造の変化で、かつての賑わいを失っていきました。戦前には約6万人もあった人口も、一時約4千人まで減りましたが、2015年には、約1万人を超えるまでに回復してきました。昼間は約20万人が集中する業務都心に変わりありませんが、商業・業務機能の中心がキタとミナミへ集中するなかで、新しい都心船場の魅力が生まれつつあります。



船場の位置

幕末から明治の大阪・船場（明治5年）



築地蟹島（浪花百景）



大大阪時代の堺筋



進化を続ける船場

船場のまちづくりの歩みと現在

2001年の「船場げんき提案」を節目に、様々な活動が誕生。そして、2019年再び、新しい活動が求められています。

2001：「船場げんき提案」開催

「シャッター通」「駐車場通」などいわれた時代。船場に「げんき」を取り戻そうと「船場げんき提案」コンペを実施。これがきっかけとなり、船場らしい空間活用・賑わいづくりの活動団体が次々と生まれました。



「船場げんき提案」コンペ

2004：「船場げんきの会」発足

活動団体が集まり、連携まちづくりを始めたのが「船場げんきの会」。毎年、船場について語り合う「船場フォーラム」や商店街を中心とした「船場まつり」を開催してきました。



船場フォーラム

2008：「船場地区HOPEゾーン協議会」発足

「まちなみ」をキーワードに多くの人々が集まって協議会を設立。大阪市と「まちなみガイドライン」をつくり、近代建築をはじめとする修景事業や、町会と連携して「船場博覧会」を実施してきました。



船場まつり

2015：「船場倶楽部」発足

大阪市は、2015年からまちの無電柱化とともに案内板の整備を進めてきました。これに協力することで生まれたのが、「船場倶楽部」です。



船場博覧会

2018：新しいまちづくりへ

2018年3月「船場地区HOPEゾーン協議会」が解散することを契機に、その事業趣意を継承するとともに、「船場げんきの会」と「船場倶楽部」を統合して、船場で活動する団体が一堂に会する新しい「船場倶楽部」が誕生しました。



船場地区HOPEゾーン協議会 まちなみガイドライン

船場倶楽部は

船場に暮らし働く人たちや、まちを訪れる多くの人たちと一緒に、開かれた窓口として、未来に向けて、一層魅力ある船場の姿を求めて、まちづくりを進めてまいります。



提案コンペ 応募状況

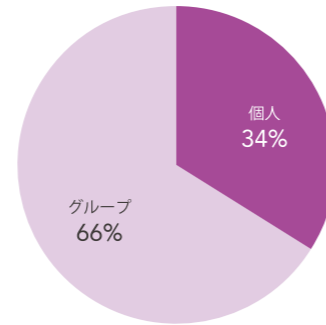
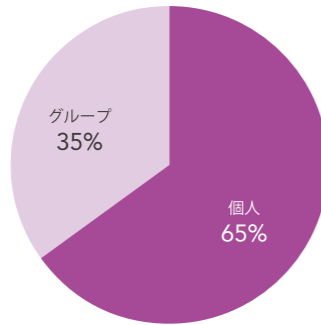
- ・アイデア提案部門 55作品
- ・まちづくり提案部門 32作品

[アイデア提案]

[まちづくり提案]

個人 / グループ

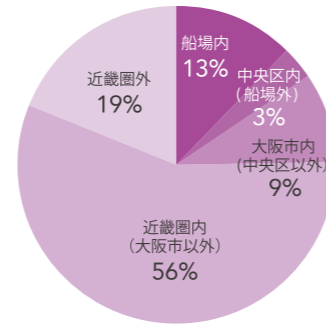
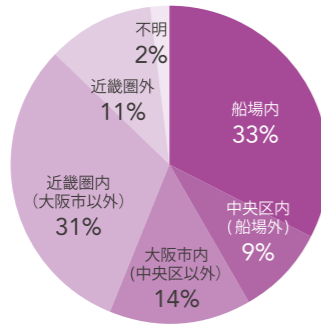
アイデア提案部門は個人での応募、一方まちづくり提案部門ではグループでの応募を多数いただきました。



住所 (グループの場合代表者)

アイデア提案部門は船場地域内の方を中心に大阪市内からの応募が過半数を占めています。

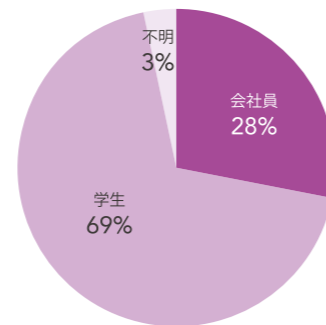
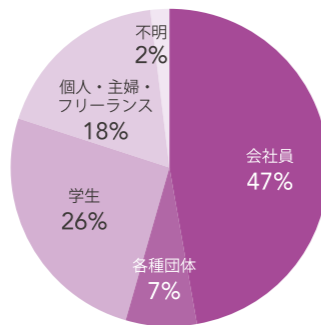
まちづくり提案部門は7割以上が大阪市内外からとなっており、近畿圏内を中心に東京・千葉などからも応募をいただきました。



職業 (グループの場合代表者)

アイデア提案部門は会社員・自営業を中心に各種団体、学生、個人・主婦・フリーランスなど幅広い方から応募をいただきました。

まちづくり提案部門は学生からの応募が約7割を占めています。



■協賛

集英連合振興町会・愛日連合振興町会・芦池連合振興町会・せんば心齋橋筋協同組合・船場センタービル連盟・三休橋筋商業協同組合・老舗学研究会・船場クリエイティブポート推進協議会・道修町まちづくり協議会・東横堀川水辺再生協議会・大阪ガス株式会社・大阪シティ信用金庫・大阪商工信用金庫・塩野義製薬株式会社・大日本住友製薬株式会社・武田薬品工業株式会社・田辺三菱製薬株式会社・田村薬品工業株式会社・豊田産業株式会社・株式会社地域計画建築計画所・有限会社中井レストラン企画・株式会社池田商店・五味産業株式会社・株式会社YRK and・株式会社伊藤園

■助成

東教育財団 平成31年度 地域文化事業助成 (第16回船場フォーラム2019)

■後援

大阪市・大阪市中央区役所・大阪商工会議所・独立行政法人都市再生機構・大阪府立大学観光産業戦略研究所

■主催

船場倶楽部